

科学者委員会学術誌問題検討分科会（第6回）議事録

日時：平成21年9月14日（月）17:00～19:45
場所：日本学術会議 5-A（1）会議室
出席者：浅島委員長，山本（眞）副委員長，西郷幹事，大垣委員，植田委員，
田口委員，北島委員，山本（正）委員，永井委員，谷藤委員，
尾城委員，林委員（テレビ会議システム参加）
事務局：渡邊参事官，古西参事官，兼平専門職，鳥生専門職，中島調査員 他
配布資料：

資料1 前回議事要旨（案）

資料2-1 報告書素案 構成案

2-2 報告書素案 1章

2-3 報告書素案 2章

2-4 報告書素案 3章

資料3 今後の進め方について（案）

参考1 委員名簿

参考2 学術誌問題の論点について（第1回分科会資料4）

参考3 論文誌発信力強化のための施策案（夏季部会資料）

参考4 学術誌問題分科会 提案内容説明資料

（NII, JST, 文科省会合資料）

議事

1. 前回議事要旨（案）の確認

浅島委員長より，前回議事要旨について確認を求められ，異議なく了承された。

2. 報告書素案の検討について

○第1章について

山本副委員長より，第1章について資料2-2に基づき，前版からの変更点を中心に説明があった。引き続き，全体および個々について下記の質疑応答・状況紹介があった。

1) 数学界の動き

2) 紀要の取り扱い

3) 学術誌の定義

4) 日本がリードしている国際学術誌についての記載

議論を受け，一部の文言を修正することとした。

○第2章、第3章について

西郷幹事並びに植田委員より、第2章、第3章について参考4に基づき、WG1とWG2の提言を合体させた新しい仕組みとしての「学術出版収集機構(仮称)」(ISCP; Institute of Scholarly Publishing and Collection), および構成案(資料2-1)変更の提案があった。引き続き、全体および個々について下記の質疑応答があった。

- 1) 公的支援のレベルの違うものを合体することの是非
- 2) 公的支援の必要度
- 3) アーカイブの必要性
- 4) システムの柔軟性
- 5) 勧誘するジャーナルの数
- 6) 投稿者にインセンティブを与える方策
- 7) ポスドクのキャリアパスの視点
- 8) エディター養成の方策

議論を受け、「学術出版収集機構(仮称)」(名称は別として)への統合と構成案変更を了承した。他方、大垣委員より、新組織設置が極めて強く前面に出ていることに対して懸念の表明があった。

3. 今後の進め方について

今後の取り組みについて浅島委員長から次のような提案があり、了承された。

○説明スライドのブラッシュアップ(担当:尾城委員)

- ・9月16日の拡大役員会(NDL, NII, JST 協議)に向けて、説明スライドをブラッシュアップする。NDL 関連事項の追加。
- ・9月15日締め切り。

○説明スライドの更なるブラッシュアップ(担当:尾城委員, 谷藤委員, 西郷幹事)

- ・9月25日の文科省説明に向けて、説明スライドをブラッシュアップする。
- ・9月24日締め切り。

○科学者委員会用説明スライドの作成(WG1とWG2の合同作業)

- ・9月28日の科学者委員会に向けて、説明スライドを改訂する。
- ・9月27日締め切り。

○総会用説明スライドの作成(WG1とWG2の合同作業)

- ・10月19日の総会に向けて、説明スライドの更なるブラッシュアップを行う。
- ・総会では、山本副委員長作成の「はじめに」とスライドを配布し、審議の経過報告を行う。
- ・10月9日(暫定)締め切り。

○中間報告書のとりまとめ(WG1とWG2の合同作業)

- ・11月19日の第7回分科会までに、中間報告書(案)を作成し、分科会で検討。
- ・中間報告書は、この後、会員、連携会員に配布し、意見を募集する。

○最終報告書のとりまとめ

- ・ 1月21日の第8回分科会までに、意見を反映させた最終報告書（案）を作成し、分科会で検討。
- ・ 最終報告書は4月の総会に提出する。

以上